

## ★奪われる生存権

―この不況下、憲法第二十五条の生存権が奪われてゆく―

●アメリカに端を発した未曾有の世界同時不況。この中で非正規社員などが、どんどん首を切られ生存権が奪われていっています。

## ★訂正 「失業者3万人↓8・5万人」

◆ついでこの間まで3万人以上の失業者が出ると言われていました。それが年末には8・5万人と3倍になると訂正されました。事態は深刻です！

◆これらの人は首になれば翌日から即収入がストップします。会社の寮から追いやられて食べ物もなく、東京都では年越し派遣村に空腹を抱えて収容できないほど大勢の失業者が集まってきました。

◆この風景は最貧国の風景ではありません。貧富の格差の問題を超えて、憲法第二十五条に保証されている「生存権」が奪われている日本の風景なのです。

## ★なぜ、こんなことになったのか

◆二〇〇四年、小泉政権は今まで限定業種にしか認めていなかった派遣等いわゆる非正規社員制度を、財界の要望に応じて一気に規制緩和しました。これにより日雇い派遣労働者など非正規社員が激増したのです。

◆これらの人は、いつでも首を切れる、雇用保険は掛けなくていい、賃金の消費税も払わなくていいという企業にとってまことに都合のよい働き手です。

◆しかも、政府は企業の法人税を安くし儲ける仕組みを作りました。企業はこれで大儲けしました。これが構造改革の中味であり、生存権を奪った元凶です。

## ★人間を大切にす政治を

◆まず、大儲けした企業はこのような首切りをしないこと。政府には今すぐこれらの人達を救う責任があります。大金持ちの人にまであげるといって「定額給付金」2兆円は、まず失業者や貧困者の救済に使うべきではないでしょうか。

◆残念ながら、私たち国民は前の選挙でこのような結果をもたらす政治家を選んではしまいました。今度こそ人間を大切にし、無駄なお金を使わない人を政治家に選ぶようではありませんか。

二〇〇九年一月十一日(日) 第五〇三回憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五

★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

●ご通行中の皆さん、ドライバーの皆さん、こんにちには。歩き続けて四二年。ただいま、「浜松市憲法を守る会」の第五〇三回目の平行行進を行っています。

●私たちは今まで、主に平和の問題を訴えてきました。しかし、今回はもう我慢が出来ず、企業に使い捨てにされる人達の生存権の問題を訴えます。これは憲法第二五条に保証されている基本的人権だからです。

●いま未曾有の不況の中で、派遣労働者や臨時工など、いわゆる非正規雇用者がどんどん首を切られています。この人達は翌日から収入がストップし、住むところもなくなるのです。このような人が、来年3月まで8・5万人が失業すると言われています。

●マスコミでは、これらは不況が悪い、首を切る企業が悪いと報じられています。直接的にはその通りですが、実はもつと根本的な問題があるのです。

●2004年小泉内閣は、派遣社員など今まで特定の業種にしか認められていなかった非正規雇用者を一気に解禁しました。これが非正規労働者失業の元凶です。

●これは企業にとつてとても都合のいい改革でした。いつでも首を切れる、雇用保険は掛けなくていい、賃金に消費税を払わなくてもいい、といった願ってもない制度です。

●これで企業は大儲けしました。しかし、使い捨てされる労働者はたまったものではありません。

●政府は、このような人にセーフティネット(救済策)は全く用意していませんでした。労働者を人間として認めず、企業の都合ばかり考えて来たのです。

●私たちは先ず、このような、人間を使い捨てにするような制度を改める事を求めます。そして、今すぐこれらの人達を救う(救済策)を実行することを求めます。究極のバラマキと言われる2兆円もの定額給付金のばらまきより先ではないでしょうか。

●一方で税金の無駄遣いが復活しました。前の内閣は税金の無駄遣いの象徴的存在の道路特定財源を福祉や貧困対策にも使える一般財源とすることを国民に約束しました。

●それを麻生<sup>あそ</sup>さんは、道路族の言い分をのんであっさり元に戻したのです。皆さん、1兆円ですよ。失業者8・5万人が約7年間食べてゆける金額です。庶民のことなど全く考えていません。

●残念ながら、私たち国民は、前の選挙でこのような政治を行う人達を選んでしまいました。間もなく総選挙が行われると言われています。今度こそ人間を大切にしたい平和を守る人達を選ぼうではありませんか。